

敗戦を糧に

光星 春夏連続甲子園

2011年夏、12年春、夏と甲子園3季連続優勝以来「強打の光星」として全国に名を知らしめたが、今夏の強みはそれだけではない。「足にスランプはない」と、春季県大会で打ち合いの末に敗れたチームに仲井宗基監督は新たな力を加えた。昨夏一丁だった盗塁は6試合で23を数えた。「昨夏、今春と」同じ轍は踏みたくなかった(仲井監督)からだ。元々あった打力に加わった機動力。その原動力は50以上のリードオフマン伊藤優平と6秒2の3番打者田城飛翔だ。2人とも本塁打を放つパンチ力がありながら、状況次第ではセーフティバントを決める器用さもある。今夏の青森大会で9盗塁を決めた伊藤は打率5割超。出塁すると「相手のけ

勝つためにできること

機動力 新たな武器に



走塁練習に励む田城飛翔。昨夏、わずか1だったチームの盗塁数は今夏、23個を数えた
—29日、光星高グラウンド

ん制の回数や捕手のこぼし方を見て、サインを待たず次の塁を狙った。積極的な走塁の姿勢が生き、大会では多くの得点を重ねた。3番田城は「中軸として思うような打撃はできなかつた」と反省したが、塁上でショートハウンドの投球を見るや次の塁へ走り、得点圏で打席に入るときは「打てなくても、勝つためにするべきことは徹底できた」と

振り返った。勝つためにできることを、選手たち全員が実践し、仲井監督も含め、雪辱を果たすための準備に余念がなかった。選手、コーチ陣一丸となってつかみ取った春に続く聖地への切符。甲子園の戦いに向け「新しいカラーを見せる」と力強く宣言した仲井監督。強打の光星一から、さらに攻撃力を増した真価を大舞台で見せつけ

与え、体のケアにも心を配った。「勝つためにできることはしないと。指揮官も含め、雪辱を果たすための準備に余念がなかった。選手、コーチ陣一丸となってつかみ取った春に続く聖地への切符。甲子園の戦いに向け「新しいカラーを見せる」と力強く宣言した仲井監督。強打の光星一から、さらに攻撃力を増した真価を大舞台で見せつけ

甲子園練習 光星は2日
日本高野連は29日、第98回全国高校野球選手権大会(8月7日から15日間)に出場する代表校の甲子園練習の日程を発表した。初日の8月1日は午後1時30分に始まり、春夏連続を狙う智弁学園(奈良)など8校が登場し、2日は午前8時30分開始で16校が汗を流す。練習時間は各校30分ずつ。3、4日の日程は後日発表される。練習順は次の通り。
▽8月1日 明德義塾(高知)いなへ総合学園(三重)北陸(福井)京都翔英、智弁学園、市和歌山、クラーク(北海道)近江(滋賀)▽2日 樟南(鹿児島)聖光学院(福島)山梨学院、大分、市尼崎(兵庫)北海道(北海道)作新学院(栃木)大曲工(秋田)嘉手納(沖縄)盛岡大付(岩手)鶴岡東(山形)常葉学園菊川(静岡)尽誠学園(香川)中越(新潟)八戸学院光星(青森)関東第一(東京都)

(林泰輔)